

最新刊

マラリア・蚊・水田

病気を減らし、生物多様性を守る開発を考える

〔著者〕 茂木幹義 (元佐賀大学医学部助教授) 〔体裁〕 B6判・上製本・280頁

〔特価〕 1,900円 (定価2,100円(税込み)) 〔送料〕 送料は海游舎が負担します

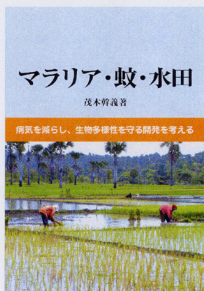
〔ISBN〕 4-905930-08-1 C3045

〔発行〕 2006年4月

生物多様性と環境の保全機能が高い評価を受ける水田は、病気を媒介する蚊や病気の原因になる寄生虫の棲み場所でもある。世界の多くの地域では、水田開発や稲作は、病気の問題と闘いながら続けられてきた。病気をなくすため、稲作が禁止されたこともある。本書は、こうした水田の知られざる一面、忘れられた一面に焦点をあてた。

水田の蚊が媒介する脳炎やマラリアなどの病気は、私たちにとっても、解決ずみの過去の問題ではない。世界的な人や物の移動や温暖化などの大きな環境変化の中で、媒介動物の分布や生態も急速に変わりつつある。媒介動物対策と環境保全は両立できるのだろうか。

熱帯での水資源や農業開発、病気対策などにかかわる人、水田を中心にした環境づくりや生物多様性保全に関心がある人に広く薦めたい。



〔目次〕

第1部 水田と蚊と病気

- 1章 インドネシアの奥地の村をめぐって
- 2章 日本脳炎
- 3章 稲作農村の蚊—生態と媒介物
- 4章 水田開発とライス・マラリア
- 5章 天水田を灌漑水田にする—南スラウェシ
- 6章 森林を開いて水田を広げる—中央スラウェシ
- 7章 新しい村と水田をつくる—セラム
- 8章 乾燥地にダムと水田をつくる—西チモール
- 9章 水田の水管理と蚊
- 10章 農業と蚊
- 11章 水田の魚と蚊
- 12章 家畜と蚊媒介病
- 13章 開発以前—セラムの先住民村

第2部 開発の中の媒介病と寄生虫病—過去とこれから

- 14章 感染症の起源
- 15章 水資源開発と感染症—特にアフリカの事例
- 16章 対策—環境的方法
- 17章 健康影響評価に基づく総合対策
- 18章 対策—21世紀に向けて
- 謝辞
- 参考文献
- 用語説明
- 略号一覧

購入ご希望の方は、海游舎あてに

1. 購入部数, 2. 郵便番号, 3. 住所, 4. 氏名, 5. 電話番号, 6. メールアドレス

をメールかFaxでお知らせ下さい。

申込み先: 海游舎 販売係

〒151-0061 東京都渋谷区初台1-23-6-110

Tel: 03-3375-8567 Fax: 03-3375-0922

E-mail: kaiyusha@cup.ocn.ne.jp